

新任のご挨拶



生体分子有機
化学研究室
教授
叶 直樹

平成31年4月1日付けで生体分子有機化学研究室的教授に着任しました叶と申します。

私は平成4年3月に北海道大学理学部化学科を卒業後、そのまま大学院に進み、平成9年3月に博士(理学)の学位を取得しました。学部生で最初に担当したテーマは藻類の生産する二次代謝産物の成分・生合成研究でしたので、札幌市近郊の沿岸部で海藻を採取し、大学に戻って一斗缶やドラム缶で成分抽出を行うというフィールドワークから大学での研究をスタートしました。大学院では複雑な構造を有する天然有

機化合物の化学合成研究を行い、平成8年に日本学術振興会特別研究員、平成9年から2年間米国ペンシルバニア大学化学科にて博士研究員を務めた間も、一貫して天然物の合成研究に従事しました。

米国では複雑なインドールアルカロイドの世界で初となる全合成を達成しましたが、その時に本学の河合賢一先生(現 名誉教授)に米国に天然物サンプルを送って頂いたのが本学と私との初めての接点でした。平成11年より2年間、慶應義塾大学理工学部応用化学科で助手を務め、天然物と共に医薬品リード化合物の合成研究に従事しましたが、平成13年に理化学研究所中央研究所研究員に採用されたのを契機にケミカルバイオロジー研究に参画し、生物活性物質の標的タンパク質を同定する手法の開発や、タンパク質リガンドを迅速に発見する技術の開発に取り組みました。平成18年に東北大学大学院薬学

研究科の助教授として着任した後は、生物活性天然物の合成、構造活性相関研究、作用機作解析研究、シトクロムP450の基質選択性解析法開発など、化学合成とケミカルバイオロジー的手法を組み合わせた研究を展開しました。この間、薬学教育と共用試験の実施・運営にも大きく関わり、自身、最初に共用試験(当時トライアル中)のモニターを担当したのが星薬科大学でした。

中学生時代に星新一先生のショートショートを愛読していた私が、このような2度の接点を経て、令和という新しい時代の幕開けに本学に迎え入れて頂いたことには運命的なものを感じます。今後も薬学教育と研究に精進し、本学の発展に少しでも貢献できるよう日々努力する所存です。皆様のご指導・ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。